

# 監査の四季

第7回  
 鯖江市代表監査委員  
 川中清司

## はつらつ 高齢社会

「君の瞳は星と輝き…」元氣なカラオケの歌声が、西山公園の老人福祉センターから聞こえてきます。利用者は年に12,822人、元氣なお年寄りが増えています。

WHOの基準では65才以上の割合が14%を超すと高齢社会。鯖江市では数年前に超えて、今は18・5%の12,338人が高齢者。市内には約100の老人クラブがあり6,354人が加わり活動しています。



高年大学の受講風景

舟枝町にある高年大学では受講生が560人。講座は文学、経済、法律から料理や園芸と幅広く、パソコン講座も年に延べ1,075人が学びました。皆さんの目は若者のように輝いています。何かを学ぼうとする意欲、語り合い、体を動かすこと、それが若さの秘けつです。

一方では、介護保険制度が始まりました。13年度の事業予算は約29億4千万円で、1,646人が要介護認定を受けました。在宅では、訪問入浴や訪問看護など15種類のサービスが受けられます。ひとり暮らし老人等の給食に延べ4,914人分、寝たきり老人の紙おむつ4,824人分なども手当てされました。

こうした担当は、おじいちゃん・おばあちゃん課で職員は14人。民間のホームヘルパーも活躍し、音楽療法人材育成講座にも19人が受講しています。

在宅介護の相談窓口は、社会福祉協議会（アイアイ鯖江内）、など市内の4つの事業所にあります。

※数値は平成13年度のものです。